

カルメル 霊性センターニュース



宇治カルメル会 十字架の道行

2017年11月

336号

『靈性センターニュース』

来年度の郵送お申込みのご案内

愛読者の皆様

『カルメル靈性センターニュース』事務局は、本年7月より、上野毛修道院から宇治修道院に移転いたしました。

このため、振替口座を宇治の方に新たに開設いたしました。来年度（2018年1月～12月、8月休刊のため11冊）の『靈性センターニュース』の郵送をご希望される方は、以下の振替口座に2,750円程度の献金（郵送料込みで1冊250円の献金とすれば、11冊で2,750円程度の献金）をお振込みいただければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-33318

加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、混乱を避けるため、年間の「郵送申込」か純然たる「靈性センターへの献金」かを明記してください。また氏名、郵便番号・住所、電話等もお忘れなく。お問い合わせは、事務局の方へ電話かファックスかe-mailで、お願いいたします。

また、既にお申込み頂いている方、ご献金頂いた方へ重複したお知らせとなります事、お詫び致します。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457

《変更しました》 reisei@carmel-monastery.jp

『カルメル靈性センターニュース』編集長
九里 彰神父

目次

来年度の郵送お申込みのご案内	1
目次	2
心の泉	3
カルメル会の企画案内	19
東京	20
名古屋	23
京都	24
北陸	26
諸所の企画案内	29
郵送お申込みのご案内	42
編集後記	43

心の泉





第三卷

第七章 謙遜をもって神の恵みにつつまれる

2 すべてを送られるのは神

多くの人は、物事が思いのままに進まないと、すぐ忍耐を失い、落胆するものである。「どんな道を歩むかは、人の手^{しゅちゆう}中にあることではない」(エレミア 10・23)。慰めの恵みを誰に、いつ、どのように与えるかは、すべて神のみ旨にほかならない。ある不注意な人々は、敬虔の恵みを慎重に用いながたために滅びてしまった。自分の弱さを省みずに、理性の判断よりも感情に流れ、およばぬことをしようと試みたからである。彼は、神のみ旨以上のことをしようとして、すぐ恵みを失ってしまった。この人は、鷲のように飛翔し、そこに巣を作ろうとしたために、貧しく見捨てられた。彼に学ばせるためであった。主の道に入ったばかりの者、未経験者は、賢明な人の意見に従わないかぎり、容易に誤り、滅びに陥りやすい。

3 慎重にふるまう

経験ある人の意見を聞こうとせず、自分の考えに固執する人は、その考えを捨てないかぎり危うい最期を遂げるであろう。自分が知患者でありながら、なおかつ他人の意見に謙虚に従う人は少ない。傲慢と空しい自負をもって学問の宝を積むより、少ない事柄でも謙虚に理解するほうがよい。

あなたにとって、多く持つことが傲慢の種になるなら、少なく持つほうがよい。以前の貧しさと、主への深い畏敬——この畏敬は神の恵みを失うことをつねに恐れている——とを忘れ、敬虔の恵みを授かった時に喜びにおぼれるのは、賢明な人のすることではない。また、苦しみや不幸の時に落胆し、私に対して、もたなければならぬ信頼を失うのは、徳を積んだ者のすることではない。

“聖なるもの” になるように 呼ばれています

神への歩みに

わたしたちの惨めさは

邪魔になりません。

わたしたちのうちに刻まれた傷さえ

神の光りのうちに

光の源となりうるのです



ひとたび歩みはじめた神への道程
では行けばゆくほど自分の貧しさ、惨
めさ、弱さを感じるようになります。

もう断念した方がよいのではない
だろうか。

しょせん、わたしには無理だ・・・



そういう思いにかられた時の自分の惨めさの体験
こそ 貴重なのです。

「自分の弱さ、小ささの中で神に信頼するとき
弱さから受ける傷は光の源となる」と福者マリー
= ユージェーヌ神父は言います。

神の慈しみの愛を輝き出すことができるのです。

弱さ、惨めさに閉じこもらないで神の光りに自
分をさらすことです。*

11月諸聖人の祝日、死者の記念日 王であるキ
リストの祝日…そして待降節が始まります！

伊従 信子 (いより のぶこ)

ノートルダム・ド・ヴィ

* 『いのちの道』 写真・文 伊従信子、サンパウロ

創造主への賛美（3）

くのり 彰

前回見たように、聖書の神さまは、世界を創造した後は我関せず、知らんぷりというのではない。

天は神の栄光を語り、大空は御手の業を示す。…話すことも、語ることもなく、声は聞こえなくとも、その響きは全地に、その言葉は世界の果てに向かう。（詩 19）

神は絶えず人間に語りかけていると詩編作者が感じていたように、日本人も、古来、太陽や月、雨や雪、山川草木の中に、神的現存を感じ取ってきた。そこには、一神教に対する多神教、啓示宗教に対する原始的アニミズムという分類で片づけられないものがある。毎朝、昇る太陽に向かって合掌する昔の人の心には、人間の営為を越えた絶対的な力に対する畏怖や感謝の念があったのではないだろうか。

以前、書いたことがあるかもしれないが、奥多摩の山奥に国際禅道場「秋川神冥窟」を開かれた愛宮ラサール神父の話进行起す。それは、和室の禅堂の中心にある大きな岩（言われないと気がつかないが、一部がくりぬかれて、聖櫃となっている）のことであった。禅堂にその岩が運び込まれた時のこと。ちょうど集まった村人がその岩を見て、ラサール神父に向かって口々に「立派な岩ですねー」とほめたたえたということである。嬉しくなった神父は、ZEN ツアー（当時、欧米からわざわざ休暇を取り、接心会のはしごをする、観光なしの坐禅ツアーがあった）でヨーロッパから来た人々に、その岩を見せたところ、全員、「いったいこの岩がどうしたの」と、何の反応もなし。がっかりしたとのことである。大きな岩が語る言葉に対し耳が閉じているのである。難しいことなど何も知らない素朴な村人の方が、その言葉を聞くことができたということであろう。

神道は、惟神の道「かんながらの道」とも言われ、その意味は「神が共にある」ということだそうである。山や川、空や海、自然現象の中に神の言葉を、神の現存を、古代の日本人は聞いていたのではないだろうか。



十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (118)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

「朝課を天国で唱えに行きます」

ヨハネ修士が、朝課を天国で唱えに行きますと皆に告げた朝課（真夜中過ぎに唱える）は、聖母の朝課でした。というのも、彼が死につつあったその日は、聖母の土曜日の典礼が行われていたからです。

すぐ手に届くところにあった、聖母への愛とまざったこの幸いへの望みは、突然思いついたことではなく、徐々に育まれたものです。マリアへの信心が、彼をそつと天国への望みへと運んだのです。「描かれた聖母の像は小さかったためなくなってしまったのですが、それを見ると、天国で聖母を見ているかのように、靈魂の中に聖母への尊敬と明るさが彼にもたらされました」。

聖人の聖母信心に対する表出は、少なくありません。カルメルのスカプラリオへの信心、毎日跪いて行う聖母への短い祈り、聖母の祝日、特に無原罪の御宿りを大きな喜びをもって祝うこと、彼自身が作ったオリジナルのロザリオを使ってロザリオを唱えることなど。聴罪司祭のホアン・エヴァンヘリスタは、こう言っています。「彼は珍奇なロザリオはなく、木製のとても粗末なものを好みました。これさえも捨て、唱えるために、魚の骨で作られた価値のないものを取りました。彼は、心が、信心の隠れ蓑によって、珍奇なものに捕らえられ、信心を助けるどころか奪われてしまうことを望まなかったのです」。



「まだミサを捧げていないのですか？」

すでに午前も大分進んで、正午前になり、一人でミサを挙げた時、まだミサを捧げていない修道者の一人に出会いました。どうしてミサを捧げなかったのかと尋ねると、その人は、よく準備していなかったからと弁解しました。するとヨハネ修士は、「えっ、何ですって、跣足カルメルの修道者は、絶えず準備し、神に注意を向けていなければならないのでは？」と言いました。

この世では教師よりも証し人を必要としています。もの事をどのようにするべきかを思い出させるのは容易いことですが、本もののキリスト者の生活を証しするのはむずかしいことです。一つには内容、もう一つにはその人のお手本にあります。誰かが真理を教えるとき、たとえその人が説いている真理を生きていなくても、その真理を受け入れるべきです。真理に従うということは、他者がそれを生きているかによるものではありません。もし自分が説教をしたりカテキズムを教える責任の立場にいるならば、自分が教える教義に心から従って生きるべきです。それは自分のものではなく、神のものだからです。

聖イグナチオ（アンチオケ）は、キリスト者と呼ばれるだけでなく真にキリスト者であることが重要であると述べています。「内面的な力のためにも、外面的な力のためにも私が必要とするのは、語るだけでなく真に欲すること；キリスト者と呼ばれるだけでなく実際にキリスト者であると分かることです。何故なら、もし私が真にキリスト者であると分かれば、私はキリスト者と呼ばれ、信仰あるものと思われるでしょうから」。キリスト教は、ファリサイ人のように自分の信仰を外面的あるいは形式的に生きるのではなく、神への愛を個人的あるいは人前での行いでその愛を示すことにより信仰を生きます。他人をとがめるようなことは避けるべきです。真にキリスト者になるためには、イエスのように考え、欲し、望み、愛するように励むことが必要です。

何よりも謙虚であることです。かつて、クレイボーの聖ベルナルドは、春の初めに雪を被った山の頂上にいる傲慢な人と、谷の下にいる謙虚な人を比べて言いました。神の恵みである溶ける雪は、上の方、誇り高い人の方へは流れません。自分は神のレベルにいると考えている態度を通してこの人は神の恵みを受け取ることができない場所に自分を置いています。他方、謙虚な人は山の麓にいるため神の恵みの水をいっぱい受け取り、そのために満ちあふれるばかりの実りを得ることができます。謙虚な人だけが真に神と触れることができ、その人の生活の中で神の恵みに奇跡をおこさせます。

主よ、私たちがキリスト者であることを大切にさせてください。キリスト者のやり方で生きることは誰にでも当然のように起こることではないと分かっています。あなたの光と恵みにおいてのみ起こります。主よ、もっと深くあなたを黙想できる恵みをお与えください、そしてキリスト者であること、キリスト者の奉獻に成長させてください。

(*Sr. Paulina*)

年間第33主日 (マタイ 25:14-30)

神は望まれるままに、その賜物をわたしたち一人ひとりに分け与えて下さっていることを聖書ははっきり教えています。神から信頼され委ねられている使命を果たすための賜物です。神の国に実りをもたらすための賜物を責任持って忠実に用いることを神は期待しておられます。二人として全く同じ人が存在しないように、神はご自分に象って一人ひとりを唯一の人間として創られユニークな存在となさいました。ですからいつもその神の御前で生き、持っている賜物（タラント）を最大限に活用して神のお望みに応えていくことが必要です。神が私だけに特別に求めているらっしゃることに忠実な自分であるかを、心を潜めて考えてみましょう。

主人から預かったタラントを投資して利息を算出した僕たちは、自分が自由にできる生活、時間の理想的な使い方を心得ていました。主人から預かったものの全てを寛大に忠実に用いて実りをもたらし、主人を喜ばせ、より一層身近で忠実な僕としての信頼を褒美としていただきました。この僕のように、わたしたち一人ひとりも生涯の限られた時間の中で持っているタラントを有効に使う、神に栄光を帰するため又他の多くの靈魂の救いのために働くよう望まれています。「忠実な良い僕だ。よくやった。」と主人に喜ばれるよう日々過ごせますように！

必要以上の怖れや誤った慎重深さは度々わたしたちを無気力にさせ、心を頑なにしてしまいます。また神からの賜物に心を留めず、自分には何も与えられていないと思い込み何もしない口実にしてしまう場合もあります。自分の環境を不服に思い、周りの人たちを非難し、神の望まれる実りを得るために働くことを怠ってしまうのです。主人はたったの1タラントを預けた僕から5タラントの利息を望んだのではありません。唯1タラントの利息を差し出すことで主人は嬉しかったのです。でも怠け者の僕は何もせずに自分中心の利己的な思い、自愛心、怠け心の中に埋めたのです。神がわたしたち一人ひとりに与えてくださった（預けてくださった）賜物、タラント（才能、）を、有益に、賢く用いて神である主を喜ばせる決意をしましょう。

主よ、どうぞあなたの豊かな恵みと愛をお与えください！その中であなたから預けていただいた全タラントを使って神の国のために働けますように！あなたの御国に真の実りをもたらす者としてくださいますように！

(Sr. Paulina)

年間第34主日

王であるキリスト

(マタイ25：31-46)

今日は教会の一年の暦の最後の主日、王であるキリストの祭日(年間第34主日)です。一年の締めくくり、振り返りに相応い、世の終わりについての箇所が選ばれています。冒頭で「人の子」が栄光に輝いて来られる姿が語られます。「人の子」すなわちイエスが再臨されますが、イエスだけで来られるのではなく「天使たちを皆従えて」とありますね。

これからいつか起こる終末の出来事ですから、私たちはまだ見たことはないですが、天使の大群とともに栄光に輝いて、栄光の座に着く…自分なりに、それぞれの人なりに、その光景を思い巡らして見ると、壮大な、輝きに満ちた、勝利に満ちたイエスの到来を想えるのではないのでしょうか。私たちもしその様な時に出逢えるなら、喜びのうちにイエスをお迎えできれば嬉しいのでしょうか。

さて「人の子」が来られると、全ての国の民が集められ、これまでの行いに応じて、右と左「わたしの父に祝福された人たち」と「呪われた者ども」の2つに分けられます。そして前者は、天地創造の時から用意されている国を受継ぎ、後者は、イエスから離れ、悪魔とその手下のために用意された永遠の火に入ることになります。この違いはどこにあるのでしょうか。

「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人」に対して、愛の行いを行ったのか、愛の行いを行わなかったのか。そのことが裁かれる人の運命を左右することになると、イエスは言われます。飢えたり、渴いたり、困ったり、様々な状況の兄弟姉妹に対して、愛の行いをを行うとき、それは勿論その兄弟姉妹に対して行ったことでもあるのですが、それはイエスに対して行ったことなのです。反面、愛の行いを行わなかったとすれば、イエスに対して行わなかったことになるのです。

「愛」そのものである、神の独り子、みことばは、人となられ、小さい者となられ、多くの人々に愛の業や行いをされ、私たちの救いのためご自身を捧げて下さいました。そして今もご自身を与え、恵みを与えて下さいます。洗礼を受けて「神の子」とされた私たちも、イエスのみあとを歩む者として、愛の業・行いをすることが出来ます様に。大きなことでなくとも、自分のできる小さなことに心を込めて、愛を込めて・・・。

(Fr. 古川利雅)

糸巻き棒からペンへ (25)



現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD

アルカラからサラマンカに引っ越しましたが、そこでも同じ理由で再び牢獄に入れられ、今度は、鎖につながれてしまいました。そこでは、「四人の裁判官の前に呼び出され、三位一体やご聖体の秘跡や教会法の事柄について沢山のことを質問されました。…捕えられて 22 日後に、判決を聞くためにまた呼び出されました。それは、彼の生活や教えには何の誤りも見出されないゆえに、キリスト教の教理を教え、神について話してもよいが、後四年間、勉学を積むまでは、決して何が大罪であり、小罪であるかを決定してはならないという条件つきでした」(nn.68-70)。今回はずっと好意的でした。カテキズム(「キリスト教の教え」)を教え、神について話してもよいとしてくれたのですから。勉強をあと四年した後でなければ、どのようなことが大罪であり、小罪であるのかを特定してはならないという条件つきではありましたが。彼の教えが正しいというだけでは十分ではありませんでした。勉学の保証書が必要とされたのです。パリでもベネチアでも、同じような訴訟が繰り返されました。彼は男性で貴族で神学生であったにもかかわらずです。

こうしてみると、テレジアの困難がどれほどのものであったかが分かるでしょう。彼女は、疑わしい家族の出身者だったのです。親族(父親、叔父、祖父)はユダヤ教を信奉することで断罪されたのです。彼女は大学教育も受けていませんでした。そして女性でした。けれども彼女は、自分の体験の実りを他者に伝えるために、祈りのテーマについて話し、書こうと試みたのです。

女性には、公の教育への道はありませんでした。読むことができることさえ、不適當であると考えられていたのです。ある女性が、口頭で、あるいは書き物で、厚かましくも人を教える師となる可能性は、絶対的に考えられないことだったのです。すべての人が、女性は本性的に弱く、悪へと傾き、簡単に悪魔にあやつられてしまうので、女性は疑ってかからねばならないと繰り返し主張していました。大多数の人は、女性は男性によって庇護されねばならないと確信していました。そのために、主に三つの権威が引用されました。(続く)

先日起こった小さな出来事の、しかしその大きな衝撃を、どのような言葉をもって言い表したらよいかのかわかりません。

大げさに言えば、瞬間全身が硬直して全機能が停止してしまうかの感じがありました。今にして思えば一見ささやかな何でもないことに、なぜこんなにもひどく反応を呈したのかと、自分でも落ち着かない気持ち不消化の心持ちですが、こうして書き記してみることが消化剤の効ともなってくれるかと思ったりしています。

現在、私は地域の自治会の委員という役目を負っています。

これは自動的に順番がまわってくるので、高齢者だからといって免れることはできません。それほどの労力をとられることもないのですが、例えば月に一度ほど回覧物を10世帯にまわします。いわゆる回覧板です。その際捺印欄を貼り付けてまわすのですが、私は捺印欄を毎回手書きで作っていました。

2センチ四方の枠目を10個、定規で線を引いて作り、回覧をお願いしますと書き添えます。この作業は私には面倒というよりは、あえて言えばむしろ手仕事の楽しさでもあったといえました。

ある日、玄関のブザーが鳴ってドアを開けると、同じ建物同じ階段の人の笑顔がありました。私とは年代のとても親しい間柄です。「ねえこれ、主人が作ったから」とだけ言って、小さな紙片の束を差し出したのです。それはパソコンを使って、とてもきれいにとてもきちんと作って印刷された、回覧板用の捺印欄表だったのです。

私はとっさに「あらア・・・ありがとう・・・ご親切に・・・よろしくお伝えして・・・」としどろもどろに挨拶し、彼女はにっこり笑ってさっと帰って行きました。毎回手書きは大変でしょうでもなく、これ使いますかでもなく、何らみじんの疑いもためらいもなく、絶対の善意親切以外ではないのです。そのことがよくわかっているからこそ、私の衝撃は大きかったのです。

ドアが閉まって、私は紙片の束を持ったまま暫し茫然自失の態でした。何というのか、確かに、機能便利その他すべてが、手書きよりはこの印刷の方がいいのだということは、もはや決まっているのでした。私にも抵抗するものは何もないのです。抗うよりはそうなのだと深く納得する自分を感じていました。

私の内の何かが確実に移りゆくという体験だったといえましょう。

友人にこの話をもっていったら、「いいこと教えてあげるね わたしはこれと

同じものをパソコンやってる人に頼んでわたしの分も作って貰ったよ 価値の
転換期に自分をどう処するかということよね この頃このことすごく多くなっ
たね」 「考えてみると 人間そのもの自体が変化してるみたいに思わない？」
「何だか深刻なことに思う・・・」ということになりました。

世は移ろうものであり、不変のものなどないのだと言います。

あらゆる進歩発展も、私たちが移りゆくことであり、それは人間としての勝
利ともいえることです。 倫理道德の面ですら変化は生じます。

時代の趨勢に沿って、人間としてのあるべき姿、在り方、やり方も変わって
いきます。 私たちは次々と流れ来るかの新しいものに、覚束なげに向かい合
い、やがて慣れ親しみ、その前のことはいつしか忘れ去るのです。 時に、懐
かしさなどなどをもって振り返ることはあっても、確かに移りゆくのです。

私自身つい先頃まで、時計の文字盤を思うことなくして、横並びの数字を時
刻と認めることができなかつたのですが、今では10時40分の長針と短針を
図に描きなさいと言われるほうが難しいでしょう。 街路を歩きながら、手を
耳に当てて大声で笑っている人を見ても平気です。 パソコンで恋愛小説が創
れるものかと思っていましたが、感動する若い作家の恋の小説は、まさか原稿
用紙に万年筆ではないでしょう。 そのうち私はAIスピーカーに当たり前のよ
うに声をかけて生活するのです。

ずっとずっと変わらないもの、いつまでもいつまでも大事なこと。

それは、あなたがここにいること。 いのちは永遠であること。

あの日、必死の思いで衣の房に触れた、あのお方。

泣いた日、涙をぬぐい抱いてくださった、あのお方。

いのちを棄てて私を愛してくださった、あのお方。

アルファでありオメガである、あのお方。

信じること 希望すること 愛すること

いのちの言葉 11月

あなたがたのうちで一番偉い人は
仕える者になりなさい

(マタイ 23・11)

群衆と、弟子になりたいと望む人たちを前にイエスは、今月のみ言葉を語られます。それは、当時の「世の風潮」¹に真っ向から逆らう、新しい生き方でした。

イエスの時代もまた、今日と同じように、^{こんにち}実行はせずに口先だけで道徳的な話をしたり、自分が有利になるように他の人を利用したりするような風潮のある社会でした。

イエスは、それとは異なる生き方を弟子たちに求められ、身をもってそれをお示しになりました。

あなたがたのうちで一番偉い人は仕える者になりなさい

キアラ・ルービックは自身の体験を次のように語っています。

「すべての人の御父である神に、いつも、目を向けていきましょう。そして、すべての人を、その御父の子どもとして見ましょう。イエスは、まさにそのように行われ手本を示して下さったからです。

イエスが分かせて下さったことの一つは、私たちはみな、唯一の御父の子どもであること。もう一つは、全ての人はお互いに兄弟同士だということです。神は、このように普遍的な兄弟愛を生きるようにと私たちを招いておられます」²と。

すべての人を愛する。ここにこそ、イエスがもたらした『新しさ』があります。私も、あなたも、周りの人もみな同じ兄弟、始めから神の子どもとして神から愛され、そのように望まれている存在なのです。

そう考えると、日々出会う一人ひとりの兄弟、父親、^{しゅうとめ} 姑、末の息子、反抗期の息子、服役中の人、物乞いの人、障害のある人、職場の上司、清掃にくる人、同じ政党の人、違う政党の人、同じ宗教の人やそうでない人、外国人、これら一人ひとりの兄弟を、必要ならば手足を使って具体的に愛さなければならないとわかります。

キリスト者の愛は、兄弟への奉仕というかたちで表わされるからです。

あなたがたのうちで一番偉い人は仕える者になりなさい

キアラは「全ての人に仕え、福音的に一番偉いものになりましょう。そのための良い方法は『相手と自分を一つにする』ことです。相手の苦しみを自分のもの

にし、その人の重荷を共に担い、喜びは分かち合い、その人と一つになりましょう」と語っています。

兄弟への奉仕のために、自分の才能や長所も活用しようではありませんか。仕事での経験や知識、芸術的なセンス、明るい笑顔、相手を和ませるユーモア、あるいは、悩み苦しむ人のために時間を割くこと、若者なら力で奉仕することもできるでしょう。たとえ、体力がなくても祈りを必要としている人のために心を込めて祈ることもできます。

あなたがたのうちで一番偉い人は仕える者になりなさい

しばしば、見返りを求めない愛は、相手の心に火を灯し『自分もこの人のように生きたい』という望みを抱かせます。

こうして、愛されたその人も、家庭、教会、職場、置かれた環境のなかで新しい人間関係を築いていくようになるでしょう。

中近東の若者エルメスが体験を話してくれました。

「日曜日の朝、僕は、今日一日愛に生きることができるとイエスに祈りました。両親は教会に行って留守だったので家を掃除しようと思いつきました。部屋を掃除し、テーブルに花も飾り、両親のために朝食を準備しました。戻ってきた両親は、家がすっかり綺麗になっているのに驚きとても喜んでくれました。

その日は、かつて体験したことのない大きな喜びの内に朝ごはんを食べ、両親とたくさんのかつちあいました。

小さな愛の行いから始まったその日は、本当に素晴らしい一日となりました」と。

レティツィア・マグリ

いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

★2017 マリアポリ in 埼玉

とき：11月10日（金）～ 11月12日（日）

場所：国立女性教育会館 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728

★キアラルービック帰天10周年記念ミサ

とき：2018年3月17日（土）15時～ 場所：四谷 イグナチオ教会主聖堂

連絡先：フォコラーレ東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail:tokyofocfem@gmail.com

ホームページ: coni1157ch1.wix.com/focolare-jp

¹ マタイ 23・1-12 参照

² キアラ・ルービック、フォコラーレ運動誕生と「一致」-1982年9月26日 Payerne(スイス)でのスピーチ

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>
の記事を紹介します。

◀ Communications (時事通信) ▶

2017年10月9日

インドの跣足カルメル修道会 養成担当者コース開催

9月25日から10月7日まで、インド地域の跣足カルメル修道会養成担当者の養成集中コースが開催され、35名のインド人養成担当者が参加しました。このコースの目的は、イエスの聖テレジアと十字架の聖ヨハネから私たちに伝えられた会のカリスマについて、養成担当者の知識を強化することにあります。

養成コースの開会式は、総長顧問会の第三顧問で南アジア担当のヨハネス・ゴラントゥラ神父によって司式されました。彼は閉会式にも、インドの上級長上会議議長のチャールス・セラオ神父と共に、出席しました。

このコースはケララ州のアルワイエにあるマンジュメル管区の修道院で行われました。講師としては、アウグスティン・ムロール神父、アロイジウス・ディーニ神父、アブラハム・テケムリ神父、プラサド神父、チャールス神父など、さまざまな分野の専門家たちが参加しました。現在、インドの跣足カルメル修道会には、養成段階にいるカルメル会士は約720人います。インドのカルメル会には7つの管区、3つの地域代理区、2つの管区代理区があります。





カルメル誌 新刊案内



2017年 秋号 No.366

《今年の特集 三位一体のエリザベトの靈性》

- 三位一体のエリザベトにおける「人間の召命」(3) 九里彰
- 三位一体のエリザベトに影響を与えた靈性家(3) ルイスブルック 松田浩一
- エディット・シュタインと三位一体のエリザベト 須沢かおり
- 風に吹かれて(13)―虚無― 原 造
- フランス便り(3)夕日を浴びる葡萄畑
―「聖なる」ものになるように あなたも呼ばれています― 伊従信子
- 遠藤周作の文学とテレーズの靈性(2)
―『最後の殉教者』と『カルメル会修道女の対話』― 片山はるひ
- 道元の靈性に学ぶ(3)―心の無限の可能性― 田畑邦治
- 今はむかしのテレビ事情 森 みさ
- 神がいつくしまれた道(15) 奥村一朗



特集号「三位一体の聖エリザベトの祈り」
―現代人へのメッセージ―

- エリザベトと共に生きる―永遠の光のもとで― 片山はるひ
- 続・歴史の中の三位一体のエリザベト 大瀬高司
- 三位一体のエリザベトにおける苦しみの神秘 九里彰
- 三位一体のエリザベトによる
「聖書に基づくキリスト中心の生活」
ポーリン・フェルナンデス
- 父と子と聖霊の唯一の神を信じる
―三位一体のエリザベトと共に― 松田浩一

ご案内

1冊 460円 A5サイズ 50~70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会
信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

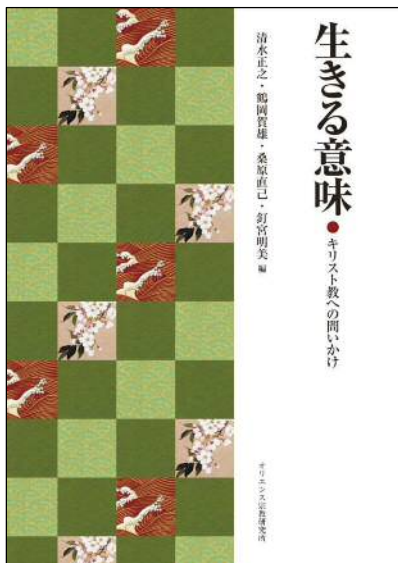
●送付ご希望の方は、600円【460円 (+送料 140円)】程度の献金を
下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費 (年5冊：春夏秋冬
+特集号 計 3,000円) を下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

お問い合わせは事務担当 竹田まで TEL(03)5706-8356





最新刊のご案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

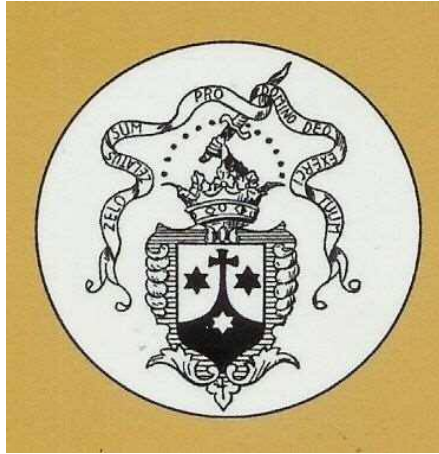
—————目次—————

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）

上野毛霊性センター(東京) 2017年11月～2018年3月

黙想企画 **上野毛聖テレジア修道院(黙想)**

1. 祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時
2017年12月24日(日)～25日(月)朝食《講話なし、夕食なし》

2. 日帰り一日黙想会 13時30分～16時 福田正範神父

私たちの毎日の生活が神のみことばの光によって照らされますように・・・。

2017年

11/10(金) 11/30(木) 12/7(木) 12/22(金)

2018年

1/11(木) 1/26(金) 2/8(木) 2/23(金) 3/8(木) 3/23(金)

*各日、午前から個人静修も可能です。(昼食付)

*申し込みは、3か月前より受付致します。

3. 奉獻生活者のための黙想会

2017年

12月27日(水) 17時～2018年1月5日(金) 朝 福田正範神父

4. 青年黙想会(男女) 35歳位まで

2018年

2月10日(土) 16時～12日(月) 16時 カルメル会士

5. 召命黙想会(男女) 40歳位まで

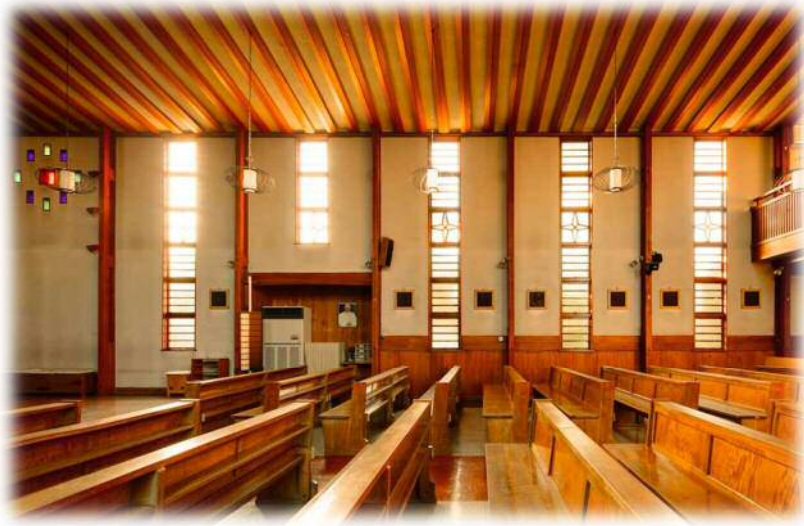
2017年

11月3日(金) 16時～5日(日) 16時 カルメル会士

6. 特別黙想会 S r. 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

2017年

12月8日(金) 20時～10日(日) 16時



交通案内

東急大井町線 上野毛駅下車 徒歩 約8分 (注: 上野毛には急行は停車しません)
各線から、東急大井町線への乗換は次の通りです。

東急: 東横線 自由が丘、田園都市線 二子玉川。

JR: 京浜東北線 大井町、JR南武線 武蔵溝ノ口。

東急バス 上野毛駅前下車 徒歩 約8分

①黒02 二子玉川～目黒駅前。(経由: 目黒通り。途中、碑文谷、都立大学。)

②園01 千歳船橋～田園調布。(経由: 環状8号。途中、瀬田、砧公園など。)

田園調布方面からは、1つ手前「明神坂上」のバス停も降車可能です。

- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、カルメル会霊性センターニュース、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です(グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせはFAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂けると幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

[Tel:03-5706-7355](tel:03-5706-7355) Fax:03-3704-1789

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ: <http://www.carmel-monastery.jp>

***** 日帰り黙想会 *****

☆☆☆聖人たちをささえた神のことは☆☆☆

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことだ”とヒエロニモは言いました。
第二ヴァチカン公会議においても次のように語られています。
「すべてのキリスト者は、しばしば聖書を読んでキリストを知るすばらしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章6章25) 信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように……

場所：カルメル会聖テレジア修道院(黙想の家)

指導：福田正範神父

* 午前中を個人黙想として静修をご希望の方は午前10時～ご利用が可能です。
昼食の準備のためあらかじめご連絡をお願い致します。
費用：午後からのご参加・・・¥2000、午前からのご参加・・・¥3500

日時：2017年 9月7日(木) 午後1時30分～4時

* 9月21日より変更

10月6日(金) ”

* 10月27日より変更

11月10日(金) ”

11月30日(木) ”

12月 7日(木) ”



お問合せ・お申込み：

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)
〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
TEL. 03-5706-7355
FAX. 03-3704-1789
Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

《2017年 名古屋一日静修》

三位一体の聖エリザベトの祈り

— 現代人へのメッセージ —

11月25日(土) 午前10時～午後4時

講師 Sr.ポーリン・フェルナンデス

「三位一体のエリザベトによる

『聖書に基づくキリスト中心の生活』

場所 カトリック日比野教会 信徒会館

(地下鉄・名城線日比野駅下車 徒歩約5分)

参加費 1000円

持ち物 聖書、ロザリオ、筆記用具、お弁当

申込み 下記いずれかの方法でお申込み下さい。

FAX / 0568 - 62 - 5167

E-mail / seisyuu_2015@yahoo.co.jp

ハガキ / 〒484-0076 犬山市橋爪一丁田 1-26

「名古屋一日静修」係り



《特別黙想会》

日時：2017年12月9日(土)～10日(日)
16時半受付～翌日16時

「三位一体の聖エリザベトの苦しみの神秘」
指導司祭：九里彰神父

申込み：宇治聖テレジア修道院(黙想)

Tel : 0774-32-7016

Fax 0774-32-7457

プログラム

- 9:45 受付
- 10:00 導入の祈り(聖堂)
- 10:20 第一講話(信徒会館)
- 11:30 念 祷 *
- 12:00 昼 食(信徒会館)
- 12:30 念 祷 *
- 13:00 第二講話
- 14:00 念 祷
- 14:30 ミ サ(聖堂)
- 15:30 茶話会(信徒会館)
- 16:00 終了の祈り

*希望者は赦しの秘跡または
面接を受ける事ができます

跣足カルメル修道会主催、カルメル在世会協賛

宇治カルメル会 2017年 黙想会案内

【聖書深読黙想会】

(午前10時～午後4時) 11月25日(土) 中川博道神父

【水曜の黙想】

(午前10時～午後4時)

11月29日(水) 「ラウダート・シ」を生きる 中川博道神父
12月13日(水) 三位一体の聖エリザベトと三位一体の神 九里彰神父

【生活の中での靈的同伴】

・1泊2日 (金) 夕食なし

(午後8時～午後3時) 11月24日(金)～25日(土) 九里彰神父

【特別黙想会—三位一体の聖エリザベトの祈り—】

・1泊2日

12月9日(土)～10日(日) 三位一体の聖エリザベトの苦しみの神秘 九里彰神父

(午後4時半～午後4時)

【青年の集いin Uji】 高校生以上35歳まで

(午前10時～午後4時半)

11月3日(金) 中川博道神父

【待降節の黙想】

(午後5時～午後4時) 12月2日(土)～3日(日) 受肉の神秘 九里彰神父

【奉獻生活者の黙想】

(午後5時～午前9時)

11月7日(火)～16日(木) 中川博道神父
12月27日(水)～1月5日(金) 九里彰神父

【English Retreat】

(10am to 4pm)

11月18日(土) A pilgrimage to Jerusalem with Magi Sr.Rosa

祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30

12月24日(日)～25日(月) {講話なし、各食事つき}

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457

E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

『生活の中での靈的同伴』

—日常を神と共に—

すでに神とともにあるのですから、天国はこの地上で始まっているのです。」(三位一体の聖エリザベト)

11月24日(金)

午後8:00 集合

8:30 オリエンテーション…(食堂脇の講話室)

その後、聖母マリアへの連祷、寝る前の祈り(教会の祈り)

10:30 就寝

25日(土)

午前6:30 起床

7:00 お告げの祈り

ミサ(聖母の土曜日)

7:45 朝食

8:50 昼の祈り①(教会の祈り)

《9:00~11:40 個別面談》

11:50 昼の祈り②(イエスのみ名の祈り)、お告げの祈り

12:00 昼食

午後 《13:20~14:00 個別面談》

14:10 聖体賛美式

(1. 入祭、聖体顕示 2. 聖書朗読、黙想 3. 賛美、祈願 4. 祝福、閉祭)

15:00 解散



- ~~~~~
1. 祈りに潜心しながら、「沈黙」を守りましょう。
 2. 黙想の家は、神さまとあなただけの空間です。
(食堂にはミネラルウォーター、コーヒー等の飲み物、お菓子等が用意されています。)
 3. 自由時間は、聖堂を自由にご利用ください。
散歩も自由ですが、修道院の外に出ることは控えた方が良いでしょう。
 4. その他、質問や緊急なことがありましたら、受付のシスターか私(Fr.九里)までお申し出ください。
 5. 3時の解散までに、帰り支度を整えておいてください。

主キリストとの交わりを真に深めることができるよう、聖霊の光、導きを願いましょう。

金沢黙想案内

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会 聖堂

14：00～ 講話

14：30～ ベネディクション・聖体祭儀

15：30～ サルヴェ レジナ 終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう



カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076-244-7788

宇治聖テレジア修道院（黙想）の 「建築基金」への献金のお願い

主の平和がいつも皆様の上にありますように

宇治の黙想の家は、1962年に建てられ、すでに54年の歳月が経っております。老朽化が進み、いろいろな点で支障をきたしております。そのため、新しく建て直す必要性が出てまいりました。会内で検討を続けてまいりましたが、財源に余裕がなく、新築計画が頓挫しております。

黙想の家は、キリスト者の霊的生活を培うために無くてはならないものです。またカルメル修道会は、霊的指導を会の固有使徒職としております。この意味でも、また日本の教会のためにも、静かに黙想する場所を、信徒の皆様のために確保してゆきたいと願っております。

建築資金の確保のため、少額でも結構ですので、皆様の御協力をいただければ幸いです。お志のある方は、以下の会本部の銀行口座か郵便貯金口座にお振込みください。その際は、誠にお手数ですが、お名前とご住所、振込み日と金額を、郵便かファックスで本部までお知らせくださるようお願い申し上げます。よろしく願いいたします。

三井住友銀行
上前津（カミマエヅ）支店
普通口座：7205805
名義：男子跣足カルメル修道会

郵貯銀行
記号：10040
口座番号：56845391
名義：男子跣足カルメル修道会



男子洗足カルメル修道会本部
〒456-0062 愛知県名古屋市熱田区大宝 4-5-17
Tel：052-571-1558 Fax：052-681-6445

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち1箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解読が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月20,360円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は19,130円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号 朝日カルチャーセンター通信講座課

電話 03-3344-2527（直通）

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センター事務局 Srローザ
にお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：九里彰神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：Srローザ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
慈しみ深き会
マリアポリ（フォコラーレ）

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み、関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

◎〒572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり・内観瞑想センター」藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2017年予定

T1	03/12 (日) -03/18 (土)	兵庫西宮・トラピスチヌ
K2	03/27 (日) -04/01 (土)	東京小金井・聖霊会
N1	05/07 (日) -05/13 (土)	滋賀唐崎・ノートルダム
K2	06/11 (日) -06/17 (土)	東京小金井・聖霊会
T2	07/02 (日) -07/08 (土)	兵庫西宮・トラピスチヌ
T3	09/03 (日) -09/09 (土)	兵庫西宮・トラピスチヌ
N2	10/10 (火) -10/16 (月)	滋賀唐崎・ノートルダム
K3	11/05 (日) -11/11 (土)	東京小金井・聖霊会
T4	12/03 (日) -12/09 (土)	兵庫西宮・トラピスチヌ

2018年予定

K1	05/06 (日) -05/12 (土)	滋賀唐崎・ノートルダム
K2	10/07 (日) -10/13 (土)	滋賀唐崎・ノートルダム

真命山

祈りの集い

年間のテーマ

山上の教え

2017



年度行事のご案内

祈りの集い(10時～15:00時)

- 1月12日 幸せの道・イエスの山上の垂訓 (マタイ5・7)
- 2月9日 心の貧しい人々は、幸せである、天の国はその人たちのものである。(マタイ5・3)
- 3月9日 柔和な人々は、幸せである、その人たちは地を受け継ぐ。(マタイ5・4)
- 4月20日 悲しむ人々は、幸せである、その人たちは慰められる。(マタイ5・5)
- 5月11日 義に飢え渴く人々は、幸せである、その人たちは満たされる。(マタイ5・6)
- 6月8日 憐れみ深い人々は、幸せである、その人たちは憐れみを受ける。(マタイ5・7)
- 7月13日 心の清い人々は、幸せである、その人たちは神を見る。(マタイ5・8)
- 8月 休み
- 9月14日 日平和を実現する人々は、幸せである。その人たちは神の子と呼ばれる。(マタイ5・9)
- 10月12日 義のために迫害される人々は、幸せである、天の国はその人たちのものである。(マタイ5・10)
- 11月9日 幸いなのは、神の言葉を聞き、それを守る人たちである。(ルカ11・27・28)
- 12月14日 見ないのに信ずる者は、幸いである。(ヨハネ20・29)

指導者 12・13 神父

※ 個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします(要予約)

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

講話と祈りの集い



11月18日(土)
12月9日(土)

午後2時～午後5時30分

担当 伊従 信子

講話・祈り・質問・分かち合い

場 所：ノートルダム・ド・ヴィ（東京・上石神井）

参加費：200円



お申し込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.com

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。 <http://sadhana.jesuits.or.jp/>
★申込み受付・・・開始日の8日前で締切ります

コース	日時	指導者	開催場所	申込み
入門B	11/19(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	来間(くるま)裕美子※ Tel.090-5325-2518 045-577-0740
サダナⅡ	11/22(水)17:30- 26(日)16:00	Fr植栗	カルメル修道会上野毛 修道院(黙想の家) (世田谷区上野毛)	同上
フォローアップ	12/3(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	同上
入門C	2018年1/14(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	同上
サダナⅠ	2/9(金)17:30- 12(月)16:00	Fr植栗	汚れなきマリア修道会 町田黙想の家	同上
フォローアップ	2/25(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	同上
サダナⅡ	3/17(土4)17:30- 21(木)16:00	Fr植栗	汚れなきマリア修道会 町田黙想の家	同上

※不在の場合は、渡辺由子 Tel & Fax : 042-325-7554

◆サダナⅠ (入門A. B. C)

体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

◆サダナⅡ

Iをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。

◆フォローアップ・・・サダナⅠを終えた方。

◆入門C・・・入門Aまたは入門Bを終えた方。



ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel： 077-579-7580
Fax： 077-579-3804
Eメール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8 日間の個人指導による黙想

初日は、18 時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2017 年 5 月 6 日 (土) ～ 5 月 14 日 (日)
- ② 8 月 14 日 (月) ～ 8 月 22 日 (火)
- ③ 10 月 9 日 (月) ～ 10 月 17 日 (火)
- ④ 12 月 27 日 (水) ～ 2018 年 1 月 4 日 (木)

B. 祈りの体験：週末 3 日間 (金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2017 年 2 月 3 日 (金) ～ 2 月 5 日 (日)
- ② 2 月 24 日 (金) ～ 2 月 26 日 (日)
- ③ 3 月 17 日 (金) ～ 3 月 19 日 (日)
- ④ 6 月 16 日 (金) ～ 6 月 18 日 (日)
- ⑤ 7 月 14 日 (金) ～ 7 月 16 日 (日)
- ⑥ 9 月 15 日 (金) ～ 9 月 17 日 (日)
- ⑦ 11 月 17 日 (金) ～ 11 月 19 日 (日)

C. 講話 黙想 (奉獻生活者のため)

2017 年 5 月 30 日 (火) ～ 6 月 7 日 (水) 阿部 仲麻呂 師 (サジゴ会)

◎ 対象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 氏名(フリガナ) 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Fax で「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10 日前までに申し込んでください。 先着順 11 名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご相談ください。(但し、上記の日程と 8 月 1 日～8 月 9 日を除きます。)

希望への道

2017年度 女子青年黙想会

	日時	テーマ	講師
1	4月22日(土)～23日(日)	なぜそのようなことがあり得ますか。	山内十束師(ご受難会)
2	6月10日(土)～11日(日)	おことばのとおり、この身になりますように。	山内十束師(ご受難会)
3	11月11日(土)～12日(日)	神は卑しいはしためを顧みられた。	山内十束師(ご受難会)
4	2月17日(土)～18日(日)	心に納めて、思い巡らす。	山内十束師(ご受難会)

場所： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

対象： 独身女性青年信徒

費用： 2,500円 (一日参加も可)

申込み・問合せ： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院 シスター桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

希望への道

—神は卑しいはしためを顧みられた—

2017年度 第3回 女子青年黙想会

日時： 11月11日 (土) 15:00 ～

12日 (日) 15:30 まで

場所： ノートルダム唐崎修道院 (JR京都駅から30分)

指導： 山内 十束 師 (ご受難会)

対象： 独身青年女性信徒

費用： 2,500円

締切： 2017年11月5日 (日) まで

〈申込み・問合せ〉

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会 Sr. 桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

●キリスト教入門講座(右頁参照)

金曜日 18時45分～20時30分

聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座(右頁参照)

毎月第1・第3・第5火曜日

18時45分～20時30分

聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探索します。2年間のコース。

●土曜アカデミー

下記(予定)の土曜日:

9時30分～12時00分、岐部ホール4階404、
各時代の文章を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。
キリスト教思想史に関心を持っている方。プログラムの詳細は、別途配布。

2017年度冬学期: 理性と神認識—中世—

11/18 ヒルデガルト他の女性神秘家
(12/13世紀)

11/25 リカルドゥス、ギョーム: 三位一体論;
愛の力(12世紀)

●神学読書会

第2・第4木曜日:18時-20時

上智大学内S.J.ハウス、第5応接室。
『リーゼンフーバー小著作集』から霊性と神学に関する文章を読んで、話し合います。
4月27日から。但し祝日、8月全体は休み。
・ミサ:上記読書会後20時-20時45分 クルトウルハイム1F右聖テレジア小聖堂どなたでも。

●黙想

・「会社帰りの黙想」

毎月第2・第4火曜日 18時45分-20時

聖イグナチオ教会マリア中聖堂
4月25日から。但し祝日、8月全体は休み。

・「黙想会」

11月11日(土)-12日(日)(上石神井)
2018年 3月17日(土)-18日(日) (上石神井)
1泊2日。申込の締切りは、初日の10日前。

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分-16時 上智大学内
S.J.ハウス、第5応接室。講話、黙想、ミサがあります。
2017年

11月25日

2018年

1月20日、2月17日

・ロザリオの祈り

(上記同日のミサに続いて)16時10分 - 16時50分

●坐禅会

・第1、第3月曜日:18時00分-20時00分

上智大学内クルトウルハイム1階左の部屋。2回坐り、間に講話。
(5月15日から。但し祝日、8月全体、12月25日は休み)

●坐禅接心

11月1日(水) 20時20分-5日(日) 8時30分
秋川神冥窟。1泊 2,400円(+暖房費)程度。
事前申込み要。

●アガペ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い・ミサ
(14時-18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5応接室。
2018年 1月27日(土)

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

キリスト教入門講座 2017年

日時 毎週金曜日
18時45分～20時30分

- 11/10 父と子と聖霊— 神の生命に与る
- 11/11-12 ●黙想会(上石神井)
- 11/17 信仰の決断— 支えられて生きる
- 11/24 ミサ祭儀— 神への奉仕と生活の糧
- 12/01 自己実現と神の意志— 生き方の規範
- 12/08 人間の弱さ— 罪とは何か
- 12/15 恵みとゆるし— 神の憐れみを受ける
- 12/22 愛の心— キリスト教の本質
- 12/23 ◆クリスマスのみサ(14時、上智大学内クル
トウルハイム2階聖堂、定員80人)
- 12/25 ●クリスマスの黙想
(18時50分-20時10分、
聖イグナチオ教会マリア中聖堂、予定)

キリスト教理解講座 2017年

日時 第1・3・5火曜日
18時45分～20時30分

[根本的態度]

- 11/07 共同存在——共通善・正義・奉仕
- 11/11-12 ●黙想会(上石神井)
- 11/21 個人の道——自己の課題と聖霊の導き
- 12/05 対人関係と友愛——恵みである他者
- 12/19 身体と生命——性と倫理
- 12/23 ■クリスマスのみサ(14時、上智大学内クル
トウルハイム2F、80人限定)
- 12/25 ●クリスマスの黙想(18時55分、聖イグナ
チオ教会マリア中聖堂、予定)

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)
信徒会館3階
アルペホール TEL 03・3263・4584
クラウス・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1
上智大学SJハウス
電話 03-3238-5124(直通)
-5111(伝言)
Fax 03-3238-5056

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
— 観想の祈りへの道 —

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室 14:00～16:00
12月のみマリア聖堂（ミサあり）

【2016年予定】

~~12月15日(木)『霊の賛歌』第5回目：第3の歌 終了~~

【2017年予定】

1月19日(木)『霊の賛歌』第6回目：第4～5の歌 終了

3月16日(木)『霊の賛歌』第7回目：第6の歌 終了

5月25日(木)『霊の賛歌』第8回目：第7の歌 終了

7月20日(木)『霊の賛歌』第9回目：第8と第9の歌 終了

9月21日(木)『霊の賛歌』第10回目：第10の歌 終了

11月16日(木)『霊の賛歌』第11回目：第11の歌

12月21日(木)『霊の賛歌』第12回目：第12の歌

* 参加費無料（献金歓迎）

* 問い合わせ先：042-473-6287 篠原

九里彰神父（カルメル会司祭）



<<特別黙想会>>

日時：2017年12月16日(土) 4時半受付～17日(日) 午後4時

場所：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

テーマ：「三位一体の聖エリザベトの苦しみの神秘」

指導司祭：九里彰神父

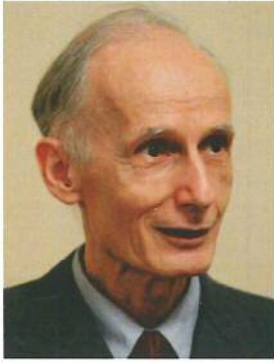
申し込み：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

Tel: 03-5706-7355 / Fax: 03-3704-1789

E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構架して、キリスト教信仰と靈性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、靈的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	I 超越体験 一宗教論	定価(本体+税)
	宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 一聖書の黙想	
	日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質	
	主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」とおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と靈性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論	
	古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践	
	信仰との関わりの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー, クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(-2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知泉書館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>

申込書

代表者氏名 _____

代表者住所 _____

連絡先 Tel _____

E-Mail _____

★性別・宿泊・食事欄に必要な箇所に○印をつけてください。

名前	性別	年齢	宿泊	食事
	男・女		10日	夕
			11日	朝 昼 夕
			12日	朝 昼
	男・女		10日	夕
			11日	朝 昼 夕
			12日	朝 昼
	男・女		10日	夕
			11日	朝 昼 夕
			12日	朝 昼
	男・女		10日	夕
			11日	朝 昼 夕
			12日	朝 昼

振込金額

参加費	人分	円
献金	他の方への支援献金・会場費等のため	円
振込額		円

申込書は切り取らずにFAX か メール でお申し込みください。

参加費

◆宿泊される方

1泊2日 (夕食1・宿泊1・朝食1)

大人	7,000円
中・高校生	6,000円
小学生	5,000円
未就学児	1,500円

2泊3日 (夕食2・宿泊2・朝食2)

大人	14,000円
中・高校生	12,000円
小学生	10,000円
未就学児	3,000円

◆宿泊されない方

大人のみ	1,000円
------	--------

※昼食、夕食をご希望の方は予め申込みが必要です。

夕食	
大人	1,080円
小学生	864円
幼児	540円

参加費に昼食代は含まれていません。昼食は個々に施設内のレストランを利用していただきます。(衛生上持参はできません)
定食や丼ものなど、多彩なメニュー(550円~800円程度)からお好きなものを選んでお召し上がりください。

★レストラン利用者数を把握しておくため、申込書の食事欄には記入を忘れずをお願いします。

申込締切

2017年9月30日(土)

振込口座

三菱東京UFJ銀行 西荻窪駅前支店
(普通) 0951732 フォコラーレ会 代表者 黒川真理子
※参加費についてのお問い合わせは、フォコラーレまで……

<キャンセル料>

不泊100%、当日100%、前日80%、9日前20%、20日前10%
食事：当日80%、前日20%



ようこそ マリアの町へ

2017 マリアポリ in 埼玉

~夜空に輝く星のように~
苦しみが喜びに



2017年11月10日(金)~12日(日)

主催：フォコラーレ

お申し込み・お問い合わせ先

フォコラーレ

〒166-0001

東京都杉並区阿佐谷北2-31-12

Tel: 03-3330-5619 Fax: 03-5356-6101

E-mail: tokyofocfem@gmail.com

プログラム

11月10日(金) 《事前準備会》

みんなでマリアポリを作しましょう!!

- 15:00~17:00 出合いの交わり【101 研修室】
- 18:00~19:00 夕食【宿泊棟レストラン】
- 19:30~21:00 マリアポリを始めるための心と場所の準備【大会議室】

11月11日(土)

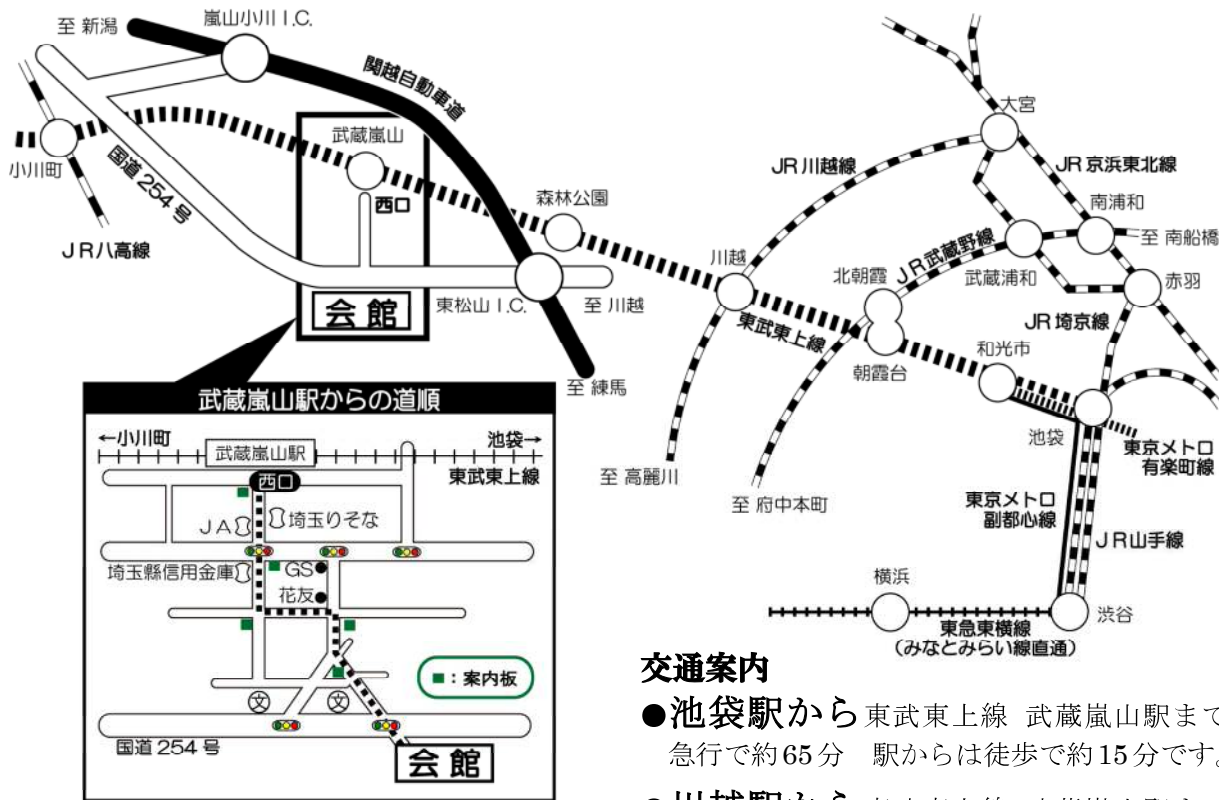
- 7:00~ 8:30 朝食【宿泊棟レストラン】
- 10:00~10:40 プログラム①【大会議室】
朝のつどい
- ※子どもたちは別プログラムがあります
- 11:00~12:00 祈りの時間
＜ミサ(司式：梅村司教様)＞
- 12:00~13:30 昼食【宿泊棟レストラン】
- 14:00~17:00 プログラム②【大会議室】
午後のつどいと自然散策
- 18:00~19:00 夕食【宿泊棟レストラン】
- 19:30~20:30 プログラム③【大会議室】
夜のつどい

11月12日(日)

- 7:00~ 8:30 朝食【宿泊棟レストラン】
- 9:00~10:30 プログラム④【110 研修室】
朝のつどい
- 11:00~12:00 祈りの時間
- 12:00~13:30 昼食【宿泊棟レストラン】
- 14:00~16:00 プログラム⑤【110 研修室】
明日に向けて

※ プログラムは事情により変更することがあります。

マリアポリ会場へのご案内



交通案内

- 池袋駅から東武東上線 武蔵嵐山駅まで
急行で約65分 駅からは徒歩で約15分です。
 - 川越駅から東武東上線 武蔵嵐山駅まで
急行で約31分です。
★羽田空港から川越駅まではリムジンバス
で約100分です。
 - 横浜駅からは東急東横線～東武東上線
直通のFライナーに乗り途中森林公園駅で
のりかえて武蔵嵐山駅まで約2時間です。
 - お車で関越自動車道を東松山 IC 降りて
国道254号線を通って約15分です。
- ※ 到着しましたら、各研修室まで直接お越しください。

四季の移ろいを楽しめる緑豊かな場所です。

※ タオル、バスタオル、ハブラシは備え付けがあります

と き：11月10日(金)～12日(日)

ばしょ：国立女性教育会館

埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728

Tel 0493-62-6711

<https://www.nwec-bs.jp/>



『靈性センターニュース』

* 郵送お申込みのご案内 *

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。
例：6月申込の場合は、7月号~12月号（但し8月号は休刊）となり、
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座（新設）
へお振り込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-33318
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。
何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457
《変わりました》 reisei@carmel-monastery.jp

「靈性センターへの献金」のお願い（上とは別）

「靈性センターニュース」は、7月より、宇治靈性センター事務局で編集、
印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担し
ております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00910-6-33318
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局
なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



編集後記

先月1日に、アメリカのラスベガスで銃乱射事件が起きた。死者は59人、負傷者は527人にのぼり、米国史上最悪の銃乱射事件となった。犯人のスティーブン・パドックは、47丁もの銃器を所有していたということである。ISなどのテロ組織とは関係がなく、単独犯だということである。

だが、トランプ大統領は、銃規制には動かないようである。日本では銃刀法の規制が厳しく、銃を所持している人は、人口の0.3%と世界最低だそうで、当然、銃を使った殺人事件も少ない。アメリカではその逆。銃は簡単に手に入り、銃を所持するのが普通、という感覚なのであろう。

しかし、武器を持てば、使いたくなるのは、人情である。日本では、江戸時代の辻斬りがいい例である。腕試しをしたくなる。むしゃくしゃしたら人を斬る。切り捨て御免はそう簡単には行われなかったそうであるが、「気違いに刃物」である。

主は非暴力を説く。銃だけでなく、軍備の撤廃こそ理想とすべきであろう。

剣をさやに納めなさい。剣を取る者は皆、剣で滅びる。(マタ 26・52)

(P. 九里)

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google: 「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています



『靈性センターニュース』お持ち帰りの方へ
一冊 100 円程度の献金をお願い致します



製本／発送のご協力お願い

「靈性センターニュース」の製本/発送を、7月号より宇治修道院で行うことになりました。発送作業は梱包・宛名ラベル貼りと確認チェック等です。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加も大歓迎です。

12月号の製本/発送日 **11月27日(月) 午前9時半頃から**
宇治修道院信徒会館

※ご協力いただける方は、製本/発送日をご確認の上、お越しく下さい。

靈性センター事務局 ☎0774-32-7456